

とよ・たち美肌通信

4月号

Vol.69





大きな桜の木の下で”かわいいちゅうちゅさんや
ハチさんが楽しそうにあそんでいます！

春らしく、つくしやお花が元気に
咲いていて、女の子と男の子は、

お花見に来たのかな？ とっても楽しそう 😊

アキラビーズであそぶことが趣味で、

ピアノを弾くことが好きだそうです 🎵

弟のお世話をしてくれる

優しいお姉ちゃんが”かいてくださいました!!

あっ!! 表紙の女の子と男の子は、お姉ちゃんと弟くん
だったのかな !!!?

院長はじめ スタッフ一同、バカリ

感謝いたします。ありがとうございます!

『致知』2009年10月号から引用。

“山より大きな猪はいない

海より大きな魚はいない”

これは、タビオという会社の会長である越智直正氏の文章である。(下記に引用する)

13年に及んだ下村奉公は過酷な生活を極めました。が、古典とともに、あの厳しい体験がなければ、いまの私はいないと断言していきます。

大畳一間に六人で住まわされ、毎朝5時55分の起床から深夜まで、休みもほとんどなく働きまくりに働きました。

大将には朝から晩まで「アホ」「ボケ」と罵られ、とことんしごかれ手いた。

何かへまをしてかそりものなら、「足を踏んばれ。歯を食いはれ」と命じられ、火花が散るほど強烈なヒンタを見舞われました。まるで軍隊のようでした。

おまけに私は、四国出身で言葉も習慣も違うため、仲間からは格好のいじめの対象になりました。

問題が起これば、何でも私に責任を押しつけてくる。一階で起きた失敗を、二階で作業している私のせいにされるようなひどい有り様で、一人で作業する時には「わしは男だ、わしは男だ」と繰り返して、溢れてくる涙を必死で抑えようとしたものでした。

一度その辛い思いを手紙にしたため、兄に送ったことがありました。自分はこの先も、器用に立ち回る都会の連中に交じってやっていける自信がありません。

そういう趣旨のことを切りと綴ったところ、すぐに兄から返事が来ました。封筒の中には二枚の便箋にたった二行、「山より大きな猪はいない
海より大きな鯨はいない」とありました。

きっと兄は間違えて書き送ったに違いない。最初はそのように思いました。しかし読み返すうちに、それが兄からの戒めであることが分かったのです。

いくらカタカタと泣き言を書き連ねても、実際はおまえが言うほどのことはない、黙って自分の職務を全うせよ、と兄は説いていたのです。

今の時代、上司に少々叱責とは到底呼べない位の注意を受けても翌日には「辞めます」という時代。知人の店長から聞いた話では「昼休み入りまーす」と言ったきり午後になっても姿を見せず、翌日も出社せず、見るとロッカーはもぬけの殻なんてこともあると嘆いていた。前述した引用文の中にもあるが、昨今は法律を振りかざせば「刑事事件」にもなりうるそんな時代、軍隊的な規律が大切な等と言っているのではない。

“怒りやエネルギーの矛先” “努力や辛抱のしどころ”
が“ほぼほぼ”間違っている日本人が増えている
様に思えてならない。

辛いこともあるだろうし、嫌になることもあるはず。時には
逃げ出したいくなることもあるだろう。しかし、この道が
自分の道と考える「心術」があれば、更には前述
の「山より大きな猪はいない 海より大きな鯨はいない」
と考えられる「心術」を持ち合わせていれば「必ず」と
何をしなければ「ならないか」見えてくるはず。

しかし若者の中にも骨のある女性がいる。7年前に出会
った私の患者様である。弱冠20歳。30歳までには自分の
店を持ちたいと富山市内でも有名な店で修業をしていた。
彼女は私の所に手湿疹(手荒れ)で通院していたが、
その手はかなり重症であった。私は診るなり職業を
たずねた。彼女はその手で仕事を全うしていた。何の
迷いもなかった。聞けば“1日14~15時間は働いている
と言っていた。7年経っている今、彼女はどこまで立派
になっているのか。お会いしてみたい。

先月早に書いた「知好楽」を実践している女性だった。

院長：拝